

爆発性の物等を小起因物とする死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2018	6	8 ～ 9	花火工場で何らかの原因により爆発及び火災が発生し、コンクリート製平屋建ての隣接する建屋3棟が全焼し、中央の建屋近くの屋外で被災者1が発見され、被災者は後日全身熱傷により死亡し、北東側の建屋から爆発による爆風、火災により焼死した被災者2が発見されたもの。中央の建屋のみコンクリート壁が吹き飛んでおり、この建屋内で爆発が発生したものとされる。	10899	14	10 ～ 29
2018	6	8 ～ 9	花火工場で何らかの原因により爆発及び火災が発生し、コンクリート製平屋建ての隣接する建屋3棟が全焼し、中央の建屋近くの屋外で被災者1が発見され、被災者は後日全身熱傷により死亡し、北東側の建屋から爆発による爆風、火災により焼死した被災者2が発見されたもの。中央の建屋のみコンクリート壁が吹き飛んでおり、この建屋内で爆発が発生したものとされる。	10899	14	10 ～ 29
2018	8	8 ～ 9	碎石工場内の火薬庫付近で、被災者が一人で発破作業の準備を行っていたところ、何らかの要因により、火薬庫内に保管されていた爆薬（合計約1.1t）が爆発した。	20201	14	1～ 9
2017	2	6 ～ 7	午前6時過ぎ、鉄筋2階建て工場建屋から出火しているのを通行人が通報し消防車数台にて消火活動を行った結果、約2時間後の午前8時に鎮火した。工場建屋は骨組みを残しほぼ全焼し、焼け跡から、当日午前5時半に出勤していた被災者の遺体が発見された。出火時は被災者のみが工場内にいた。事業場内には作成した可燃性のFRP製品やその材料等である有機	10805	16	1～ 9

			溶剤が多数あり、それらにより火が一気に広がったと思われる。			
2017	5	14 ～ 15	採石場で、ドラグ・ショベルを用いて採石積込み作業中に、発破班から発破のため退避するよう合図があったため、作業を中断し、発破箇所から約50m離れた位置でドラグ・ショベルの運転席で待機していたところ、発破で飛んだ直径約18cmの石が運転席に飛来し、被災者の腹部に当たった。	20201	4	1～ 9
2012	1	14 ～ 15	被災者は事業場内の実験棟において、電撃破砕薬の開発のため、アルミニウム粉と過酸化カルシウム粉の混合作業を行っていたところ爆発が発生し、全身の40%以上に熱傷を負ったもの。なお、電撃破砕薬とは、アルミニウムと過酸化カルシウムに電撃を加えることによりテルミット反応を発生させ、その時発生する熱により樹脂を気化させ爆発させるもので、岩盤の破砕等に用いられる。	10909	14	100 ～ 299
2010	2	13 ～ 14	事業場に保管していた火薬類の取り扱い作業中に爆発及び火災が発生した。事業場1階で当該作業を行っていた作業従事者2名が火傷等の負傷（重傷2名）、事業場2階で事務作業を行っていた2名のうち1名が避難後に咽喉の炎症等による軽傷で、合計3名が病院で治療。重傷者2名のうち、1名が18日後に死亡。	100109	14	1～ 9
2009	12	13 ～ 14	バッテリー製品の一部を製造する工場内において、作業員4人により水素吸蔵合金を作製する溶解炉内で溶解炉のメンテナンス及び炉内にたまった金属粉の清掃を行っていたところ、炉内に堆積していた金属粉に着火し（原因調査中）、爆発を起こした。作業員4人が被災し、うち2人が後日死亡した。	11101	14	50 ～ 99
2009	12	13 ～ 14	バッテリー製品の一部を製造する工場内において、作業員4人により水素吸蔵合金を作製する溶解炉内で溶解炉のメンテナンス及び炉内にたまった金属粉の清掃を行っていたところ、炉内に堆積していた金属粉に着火し（原因調査中）、爆発を起こした。作業員4人が被災し、うち2人が後日死亡した。	11101	14	50 ～ 99

2009	11	19 ～ 20	工場内点火薬製造工室において、被災者は硝酸カリウム、ボロン（ホウ素）と水を混合する槽に、サイクロンから回収したボロン、混合槽液の残り、濃縮スラリー（ボロン+軟水）、製品の残りを投入したあと攪拌機を起動させた。同時に混合槽内に水を投入し始めた。その約2分後に混合槽が爆発し、被災者は死亡した。	10899	14	～ 299	100
2008	3	9 ～ 10	発煙筒製造工場敷地内の発煙筒処分場において、使用期限切れで市場から返却された発煙浮信号64個を焼却処分するため、焼却炉を点火し焼却作業の準備をしていたところ、突然爆発して被災者が爆風により吹き飛ばされた。	11709	14	～ 99	50
2006	2	11 ～ 12	事業場内の倉庫（花火半製品一時置場）で花火が爆発し、火災が発生した。被災者は、倉庫の入り口付近で仰向けに倒れていた。	10899	14	～ 29	10
2005	8	13 ～ 14	原子力発電の燃料チャンネル製作工程で、チャンネルの表面を研削して発生したジルコニウム粉を処理するため、柄杓にジルコニウムを載せ、燃焼装置に投入して燃焼させるという作業を繰り返していたところ、燃焼装置から吹き出した火の粉により、被災者の傍らにあった未処理のジルコニウム粉が発火し、被災者が火傷を負った。	11301	14	～ 49	30
2005	2	10 ～ 11	アルミの鋳物製品の研磨作業を行う作業場所で、突然爆発火災が発生し、被災した。	11209	14	～ 49	30
2005	2	10 ～ 11	アルミの鋳物製品の研磨作業を行う作業場所で、突然爆発火災が発生し、被災した。	11209	14	～ 49	30
2005	7	18 ～ 19	ベンチ部の岩石を発破により掘削するため、発破の装填を完了し、点火したところ、発破に巻き込まれた。	20201	4	～ 29	10
2005	3	14 ～	工場内で、爆破処理作業中、手榴弾1個が爆発した。	10899	14	～	50

		15				99
2004	3	15 ～ 16	半導体材料ガスの無害化装置に装着する吸着剤カートリッジの組立て作業で、半導体製造会社から吸着剤詰め替えのために移送された使用済みカートリッジ（キャスター付き）を他の作業者が手押して移動していたところ、工場敷地の雨水排水溝にキャスター車輪が取られカートリッジが転倒して使用済みカートリッジが爆発し、その蓋が被災者に飛来、激突した。	10801	14	10 ～ 29
2003	11	20 ～ 21	花火大会において、水中花火と打ち上げ花火（4寸玉2発）を組み合わせた最後の演目の点火をした直後に打ち上げ花火が爆発し、花火打ち上げ作業に従事していた花火師2名が死亡し2名が負傷した。（死亡した2名のうち1名は事業主で非労働者）	11709	14	10 ～ 29
2003	8	19 ～ 20	花火打ち上げ筒10本を束ねた発射装置で花火玉を順次打ち上げていて、5発目の花火玉を打ち上げる時に打ち上げ筒内で何らかのトラブルが発生したので筒内をのぞき込んだときに、打ち上げ用の黒色火薬に点火していたため花火玉が発射され頭部および顔面に当たった。	150101	4	1～ 9
2003	8	20 ～ 21	花火大会で、打ち上げ開始から数分後に5号玉（直径約5cm）の6発目を打ち上げようとしたときに、打ち上げ用のステンレス製筒（直径約15cm、長さ約120cm、厚み1.5mm）内で花火が爆発し、その後、付近にあった花火約80発が次々に誘発した。	80209	14	1～ 9
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	11709	14	10 ～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	11709	14	10 ～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	11709	14	10 ～ 29

2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	11709	14	10 ～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	11709	14	10 ～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	11709	14	10 ～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	11709	14	10 ～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	11709	14	10 ～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	11709	14	10 ～ 29
2002	6	14 ～ 15	プラスチックのペレット（約3mm角）をタンブラーに投入する作業をしているときに、何らかの原因で爆発して火傷により死亡した。（タンブラー内には少量のスレアリン酸亜鉛が入っていた）	10805	14	10 ～ 29
2000	4	13 ～ 14	2名でMgとAlの合金地金を粉碎機で砕いていたところ(直径10～20m程度の粒を粉末にする作業)、突然爆発し全身に熱傷を負った。	11209	14	10 ～ 29
2000	4	13 ～ 14	2名でMgとAlの合金地金を粉碎機で砕いていたところ(直径10～20m程度の粒を粉末にする作業)、突然爆発し全身に熱傷を負った。	11209	14	10 ～ 29

1999	8	20 ～ 21	温泉花火大会が開催されている海岸において、海上に浮かべられた打ち上げ花火用台船から約1.7m下の海に転落した。	10899	6	10 ～ 29
1999	8	11 ～ 12	墓石用の採石場で、原石を採掘するため先山に削岩機で3箇所穴を空け、鉄製の込棒とげんのうを用いて黒色火薬の装薬中に突然爆発が起きたため込棒が頸部に当たった。	20201	14	1～ 9
1999	7	0 ～ 1	アルミニウム屑を溶解する反射炉にフォークリフトでアルミニウム屑を投入する作業において、アルミニウムの破材を約250kg投入し、次にアルミニウムの微粉を約2トンをほぼ投入し終えたときに、爆発が発生した。	11101	14	10 ～ 29
1999	2	15 ～ 16	国道の拡幅工事現場において、土留め用の鋼矢板を引抜くため、矢板に玉掛けをしていたときに突然、爆風に飛ばされて全身を打撲した。	30199	14	10 ～ 29

2021年、2020年の事例は新型コロナ罹患を含む。2011年の事例は東日本大震災による労働災害を含まない。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

[小起因物別の死亡災害事例（1999-2021年）](#)に戻る。

(参考) [労働災害の分類の概要](#)